



さまざまなアプローチで平和や戦争を問い直し、 平和のために自分は何ができるか考える。

法文学部 片岡 佳美・関 耕平・山崎 泰孝・浜田 幸絵・吹野 卓・
 渋谷 聡・丸橋 充拓・福井 栄二郎・板垣 貴志・伊集院 敬行・
 内藤 忠和
教育学部 諸岡 了介
副学長 藤田 達朗

だれもが、平和な世界を望んでいると言います。しかし、世界各地で紛争やテロ、
迫害などが起きています。日本にいる私たちは、それらをつい遠くの出来事として見
てしまう傾向がありますが、世界市民の一員として、それぞれが「自分ごと」として、
自分で引き受けて考え行動するという責任があります。

全学共通教養科目「平和学」は、そのような考えのもと2014年度よりスタートした、
オムニバス形式の授業です。法学、政治学、経済学、歴史学、社会学、文化人類学、
文学、芸術学など、さまざまな学問分野を専門とする教員がそれぞれのアプローチで
「平和」や「戦争」を講義し、社会や歴史、あるいは自分自身を新たな視点から振り
返り考える機会を提供してきました。毎年、文系・理系を問わず多くの学生が受講し
ています。

身近に戦争を体験した人が少なくなるなか、「平和」を普遍的に価値づける文化を
育むことも「平和学」の授業の使命だと考えています。